

<発表事由>

- 1 入院事例
- 2 死亡事例
- 3 集団発生事例
- 4 その他(特に注意喚起等が必要)

令和4年10月21日 18:00 現在
保健医療局 健康医療部 保健予防課 担当: 麻生嶋、澤田
TEL 711-4270 (内2061)

腸管出血性大腸菌感染症の発生について

南区内の医療機関から80歳代女性の腸管出血性大腸菌感染症の発生届出があり、南保健所が調査を行った結果、当該女性が入院中の医療機関の患者からも腸管出血性大腸菌が検出されましたのでお知らせします。

1 概要

- 9月17日(土) 南区内医療機関に入院中の80歳代女性に下痢症状が出現。
- 10月5日(水) 医療機関が検査を実施。
- 10月12日(水) 検査の結果、腸管出血性大腸菌感染症(0121:VT2)が検出される。
医療機関より南保健所に発生届が提出される。
南保健所が、当該医療機関について、健康調査、感染拡大防止の指導を実施。
- 10月21日(金) 医療機関の検査の結果、当該医療機関入院中の他の患者1名(無症状)からも菌(0121:VT2)を検出。

2 陽性者の区分(現時点)

患者	性別	70歳代	80歳代	計
	男	0(0)	0(0)	0(0)
	女	1(0)	1(1)	2(1)
	計	1(0)	1(1)	2(1)

()内の数は、有症状の人数

※検査の結果、上記のほか、他の入院患者1名(無症状)から(0111:VT1)を検出したが、型が異なるため、上記2名の集団発生事例と関連はないと考えている。

3 行政対応

患者及び医療機関に対する健康調査・感染拡大防止の指導を実施。

4 原因 調査中

腸管出血性大腸菌感染症患者・感染者の福岡市への届出状況(令和4年10月21日現時点)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
3	5	2	3	4	6	9	5	19	7	8	4	4	76
4	4	2	4	2	11	18	19	21	13	14	-	-	108

※本件を含む。

※腸管出血性大腸菌は、O-157が代表的ですが、他にO-111、O-26などがあります。上の表は、これらの総数です。

【特記事項】

- ・患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内での報道をお願いします。
- ・「集団発生」は、1週間以内に同一感染系統と見られる2例以上の発生を見た場合をいいます。ただし、同一家庭内の複数発生は含みません。

【市政記者クラブの皆様へ】

例年、夏場を中心に腸管出血性大腸菌感染症(O-157等)が多数発生しています。

記者クラブ各位におかれては、次のことを市民の皆様呼びかけていただきますようお願いいたします。

- ・帰宅時、食事前、トイレ、おむつ交換のあとは石鹸と流水で十分に手を洗いましょう。
- ・浴槽は毎日洗い、浴槽につかる前は肛門部等を十分に洗いましょう。
- ・激しい腹痛、水様便、著しい血便などの症状があったら、すぐに病院で検査を受けましょう。
- ・調理するときは十分に加熱し、調理した食品は速やかに食べましょう。
- ・焼き肉の際など、生肉に触れた箸で食べないようにしましょう。
- ・包丁、まな板、布巾等は、よく洗った後、熱湯をかけるなどして消毒しましょう。
- ・高齢者や乳幼児の方は、症状が重くなりやすいので、感染予防に配慮し、感染が疑われた時は、すぐに医師の診察を受けるようにしましょう。